

絆深まる芸能発表会

三市合同芸能発表会

10 / 3



▲『三市合同芸能発表会』を楽しみにしていた来場者



▲海老名市の舞踊に来場者も引き込まれる



▲華やかな和装で登別市が詩吟発表



▲力作が揃った『三市合同作品展覧会』

10月3日(土)、市民会館大ホールで、『三市合同芸能発表会』(登別市文化協会主催)が開催されました。

同発表会は、姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市と、文化面での交流を通じて三市の絆をより一層深めようと開催されたものです。

舞台は、白石市文化協会の民謡発表で幕開け。海老名市文化団体連合会、登別市文化協会も、舞踊や詩吟など華やかな舞台を披露し、来場者から大きな拍手が贈られました。

登別市文化協会会長の熊野正宏まひろさんは、「ことは、登別市文化協会創立50周年であると同時に、市制施行45周年さらに海老名市と姉妹都市となった記念すべき年です。このような年に『三市合同芸能発表会』が実現したことは大変意義深く、この上ない喜びです」とあいさつしました。

また、10月3日(土)から5日(月)まで、市民会館中ホールで三市の各団体の川柳や短歌などの力作を展示した『三市合同作品展覧会』も行われ、会場を訪れた方の目を楽しませていました。



▲参加者を引きこむ体験談を織り交ぜながら、メキシコの多彩な魅力を紹介

メキシコの多彩な魅力を紹介

第1回国際理解講座

9月28日(月)、市民会館で、平成22年から3年間メキシコの日本人学校への派遣経験を持つ、西陵中学校の吉井真裕先生を講師に、『第1回国際理解講座』(市主催)を開催しました。

吉井先生は、メキシコの気候や歴史、文化の違いなどを、映像や自身の体験談を織り交ぜながら紹介。「メキシコ人は家族や友人との絆、笑顔を大切にする魅力的な人たちです。皆さんもぜひ、メキシコに遊びに行ってみてください」と話していました。

参加者は、初めて知るメキシコの文化に驚きながらも、まだ見ぬ地に思いを馳せていました。

9 / 28